

- (1) 単元名：話し合って、考えや意見を一つにまとめよう。《話す・きく》
- (2) 本時の目標：話し合いを行い、みんなの意見を一つにまとめる。

平成27年の12月、与那嶺校長から一報の電話があった、内容は次年度の校内研修を「協同学習」にシフトし『互いに学び合う授業』づくりに取り組んでいきたいとのこと。さっそく次年度に向けてモデルとする教室（授業）を準備したいので協力してほしいとの依頼であった。28年2月、3年担任のH先生が、校長先生から提案された授業スタイルで初めての「協同学習」への挑戦が始まった。今年度の5月には新しい先生方を迎えてのモデル授業も引き受けてくれた。



本日私にとって3回目の訪問になるが授業参観前の校長室で「最近何となく各教室が良くなってきている。」実に曖昧な話をしてくれた。そうなんです学校改革は「なんとなく、いつの間にか、じわりじわり」ゆっくり変わっていくのです。今日は6年生のI先生が国語科の話し合い活動で「聴き合い・かかわり合い・支え合う」授業づくりへの挑戦である。

[授業開始前] 5分ほど前に教室に行き教室や子どもたちの様子を見させてもらいました。



廊下で担任と女の子数名との楽しい会話と素敵な笑顔との出会いがあった。教室で掲示物を見ていると先ほど廊下ではしゃいでいた女の子が勝手に習字のうまい子の紹介と説明をしてくれた。お世辞にも上手とは言にくい作品ではあるが屈託のない笑顔でうれしそうに話し私の心を一気に和ませてくれた。



右の写真、小学校の5校時の始まりは大体似た風景である、額と顔を汗で濡らし、なかには肩で息をつきながら入ってくる子もいる。休み時間を一時も無駄にしたいのが子ども達である。水筒の水を飲んで落ち着く様に促す教師、のどを潤し大きく息をついてまた席に着く。ちょっとしたやり取りや行為に、やはりなんとなく子ども達の居心地のよさを感じる。すべての子ども達にとって居心地のいい教室を準備してあげるのは教師の使命である。素晴らしい！

[淡々と始まる] 授業開始はゴールデンタイムである。今日やる学習への期待が高まる余計を省いて淡々と授業の内容に入ることがベスト。写真①、スイッチが切り変わり授業モードに入る。今日の学習のめあてと話し合いの進め方を確認する。



写真①



写真②

写真②、これがきき合う眼差しである。聴く側の目線が、話す側の心を支える。まさに、きき合い・支え合いである。

[グループで話し合う] 話し合いのテーマは「クラスの親睦を深める」



話し合いに入る前に授業者は話し合いの目的やテーマを確認する。グループには特に司会者を指名せず、自分たちで主体的に話を進め、まとめるように指示した。どのグループも事前に付箋紙に自分の考えを書き込んで準備していた付箋紙を準備された用紙に張りながら、言葉で説明する。各々の考えを理由をつけて相手が納得できるように説明する。ただ楽しいだけで「親睦を深める」からそれないように授業者は子ども達の会話に耳を傾け気を遣う。



どのように一つにまとめていくかは各グループに任せられている。同じ意見や似たような意見をまとめ始めるグループもある。写真③のグループは消去法で絞っていった。



写真③

『すべての教師の力とすべての仲間で支える』 一人残らずすべてにこだわる覚悟を持つ！



どこの学校、どんな教室に必ず対話的コミュニケーションを苦手とする弱い子の存在があります。様々な出生や事情・状況を乗り越えて今一生懸命を生きている。インクルーシブ、ノーマライゼーション、ユニバーサルバリアフリー等、社会はどのような人でも支え合う街づくりに向かっています。この教室も未来の街の縮図です。

左写真の女の子の笑顔・・・素敵ですね
民主主義と平等は、確実に人を幸福に導くために選ばれたシステムですね。



さて、すべての子ども達を受け入れて、支え合う教室、支え合う学校をつくるのはいったい誰の役割でしょうか？…簡単です。みんなの学校ですから「みんなで作るのです。」当然、教師も受け持つ担任だけではなく、すべての教師が個々に共通理解し支え合っていくことが大切とされるのです。教室や学校内でこの子達の表情や成長を「みんなの学校」のバロメータにしたいものです。



【発表する】

グループの代表者が発表する。発表者も各グループから主体的に出てきたのがほとんどでした。

自分の考えを伝えるのではなく、グループの話し合いの内容や進行状況等を言葉で説明した。すべての子どもの考えが反映された付箋紙である。伝える側も気を遣い何よりもきく側も一生懸命である。「楽しくなければ親睦にならない」「楽しいだけでもまたいけない」同じや違う意見や考えに質問が向けられる。

写真④、子どもに意見を求める授業者、教師に指名された子に向けられる周りの仲間の視線が大切になってくる。



【授業終末】授業者は、次時に向けて決定する内容にいくつかの条件を出した。最後に条件をしめしたのには授業者の意図があった。自由に考えさせてみて、子ども達の発想の広がりや深まりを期待していた。



決定は次時に持ち越すこととなった。授業終了後黒板の前で他のグループの意見を探りに来る。まさに明日につながる授業展開である。

左の女の子は、グループでの発言はほとんどなかったが、張り出された他のグループの付箋紙を何度も見直していた。「何かを知りたい私がある。」

『アクティブラーニングのイメージ』

文部科学省初等中等教育局視学官 田村学

- i 習得・活用・探究という**学習プロセスの中で**、問題発見・解決を念頭においた**深い学びの過程**が実現できているか。
- ii **他者との協働（協同）**や外界との相互的作用を通じて、**自らの考えを深める、対話的な学びの過程**が実現できているか。
- iii 子ども達が見通しをもって**粘り強く取り組み**、自らの学習活動をふり返って次につなげる。**主体的な学びの過程**が実現できているか。



T・I 先生授業公開ありがとうございました。今日、先生の提案された授業から多く学ばれることがあったと思います。今帰仁小の皆さんでアクティブラーニングを見通した授業づくりに進んでください。

国頭学びの会ゆい